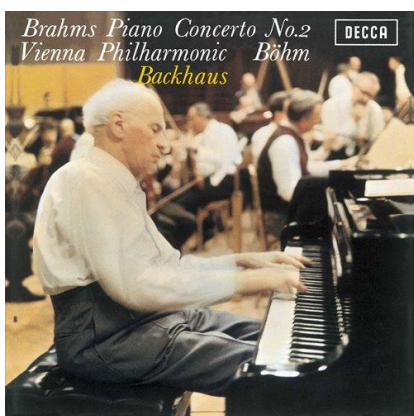


## FAL 秋葉原試聴室訪問記(2018.9.7)

### 1. はじめに

上京を機会に [FAL の試聴室](#) に寄ってきました。FAL については、試聴を繰り返し C90 EXW を導入した経過があり、[FAL スピーカー試聴記](#) のシリーズで紹介しています。古山社長もご健在で、何年ぶりかの訪問となりました。最近のシステムの状況を試聴させていただきました。

### 2. FAL 試聴室における試聴の経過



試聴したスピーカーは次の3機種です。

Supreme S C60e ブックシェルフ型

Supreme S C60e フロアー型

### Supreme C90 EXW

このうち Supreme C90 EXW は現在使用中で、現行製品は若干の仕様変更がなされているとのことでした。

持参した音源はディスコグラフィのページで紹介済の上掲の写真の MQA-CD で、通常の CD としての再生になります。

入力系は、パイオニアの CD プレイヤー PD10 をトランスポートとして使用し、日本オーディオの DAC である DA-500 経由で、駆動は 300B シングルの AM-M1 です。Supreme S C60e のブックシェルフ型は、ロジャースの LS3/5a モニターを思い出させるようで、さらに空間表現に優れた緻密な音を聴かせてくれます。一方、Supreme S C60e フロアー型では、スケール感が向上し、ユニットや容積から想像できないような堂々たる音になります。

次に、Supreme C90 EXW に替えますと、当方も 300B シングルで駆動していることもあって聴きなれた音が戻ってきました。

バックハウスのブラームス 2 番ではベーゼンドルファーらしい豊かな響きと低弦の堂々たる鳴りようが見事です。ベーム／ウイーンフィルのブルックナー 4 番では、まさに同社の製品の「オーケストラが見える」状況が再現します。ここで駆動アンプを、SIT 素子 4 個を使用した、FAL S.I.T に替えますと、300B のよく協和したウオームな音から、透明度が高く、オーケストラのパートが隅々まで見通せるような音になり、プロムシュテットの指揮で聴いたバンベルクフィルの生のオーケストラの演奏の雰囲気を出させてくれました。

### 3. まとめ

同席の一同、MQA-CD のポテンシャルを、限定的な CD クオリティの再生ではあるものの、FAL の現行システムがよく引き出しているとの感想を述べておられました。今回の試聴では、特に DAC の DA-500 と FAL S.I.T アンプと C90 EXW のマッチングが印象に残りました。

以上